

処方箋医薬品^{注1)}

日本薬局方 生理食塩液[※]

生理食塩液「ヒカリ」

生理食塩液「ヒカリ」	承認番号	薬価収載	販売開始
20mL管 ^{注2)}	16000AMZ05583	2010年6月	2010年10月
50mL瓶 ^{注2)}		1994年7月	1994年11月
100mL瓶 ^{注2)}		1990年7月	1990年10月
100mL瓶P細口開 ^{注2)}		1990年7月	2019年4月
250mL袋 ^{注2)}		2006年7月	2006年8月
500mL瓶 ^{注2)}		薬価基準収載	1989年11月
500mL袋 ^{注2)}		2001年3月	2001年4月
500mL瓶P広口開 ^{注2)}		薬価基準収載	1987年10月
500mL瓶P細口開 ^{注2)}		薬価基準収載	2001年4月
1000mL袋 ^{注2)}		2001年3月	2001年4月
1000mL瓶P広口開 ^{注2)}		薬価基準収載	1987年10月
1000mL瓶P細口開 ^{注2)}		薬価基準収載	2001年12月
再評価結果		1977年10月	

注2) 管P：プラスチックアンプル 瓶P：プラスチックボトル
 袋：ソフトバッグ 開：開栓型

貯 法：室温保存

使用期限：外箱、容器に表示の使用期限内に使用すること。

注 意：取扱上の注意の項参照

注1)注意—医師等の処方箋により使用すること

※【組成・性状】

1. 組 成

本剤は1管、1本又は1袋中に下記の成分を含有する。

成分	容量	20mL	50mL	100mL	250mL	500mL	1000mL
塩化ナトリウム		0.18g	0.45g	0.9g	2.25g	4.5g	9g
電解質濃度 (mEq/L)		Na ⁺		Cl ⁻			
		154		154			

2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の液で、弱い塩味がある。

pH：4.5～8.0

【効能・効果】

1. 細胞外液欠乏時、ナトリウム欠乏時、クロール欠乏時
2. 注射剤の溶解希釈剤
3. 皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布、含そう・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
4. 医療用器具の洗浄

【用法・用量】

- 注 射：通常20～1000mLを皮下、静脈内注射又は点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減する。適量を取り注射用医薬品の希釈、溶解に用いる。
- 外 用：皮膚、創傷面、粘膜の洗浄、湿布に用いる。含そう、噴霧吸入に用いる。
- その他：医療用器具の洗浄に用いる。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 - 1) 心臓、循環器系機能障害のある患者
 [循環血流量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
 - 2) 腎障害のある患者
 [水分、塩化ナトリウムの過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]
2. 副作用
 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
 副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
大量・急速投与：大量を急速投与すると血清電解質異常、うっ血性心不全、浮腫、アシドーシスを起こすことがある。
3. 高齢者への投与
 一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- 1) 調製時
 注射剤の溶解・希釈液として使用する場合は、生理食塩液が適切であることを確認すること。
- 2) 投与前
 ① 投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具の消毒)。
 ② 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
 ③ 開封後は直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- 3) 投与時
 ① ゆっくり静脈内に投与すること。
 ② 皮下注射する場合には、神経走行部位をさけるよう注意すること。
 ③ 繰り返し皮下注射する場合には、注射部位を左右交互に変更するなど配慮すること。なお、乳・幼・小児には連用しないことが望ましい。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩化ナトリウム(Sodium Chloride)

分子式：NaCl

分子量：58.44

性 状：・無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。
 ・水に溶けやすく、エタノール(99.5)にほとんど溶けない。

【取扱い上の注意】

1. 輸液セットの瓶針又は混注の際の注射針は、ゴム栓の刺針部(凹部)に垂直に刺すこと。斜めに刺すと排出口側壁を刺通し、液漏れの原因となることがある。また、同一箇所を繰り返し刺さないこと。
2. 内容液に着色又は混濁等の異常が認められる場合は、使用しないこと。
3. 容器の目盛りはおよその目安として使用すること。
4. 連結管による混合投与の場合は、Y字管連結にして使用すること(U字管連結はしないこと)。
5. プラスチックボトル
 1) 通気針は不要である(混注量により通気針が必要な場合があり、また、輸液の液量が少なくなると排出速度が低下してくるので、設定の投与速度を維持して使用する場合には通気針を用いること)。
 2) プルオフキャップ及び細口開栓型キャップの取り外し方は、裏面を参照すること。
6. ソフトバッグ
 1) 包装内に水滴が認められる場合には使用しないこと。
 2) 排出口をシールしているフィルムがはがれている場合は使用しないこと。
 3) 通気針は不要である。

【包装】

20mL×50管(プラスチックアンプル)
50mL×10本(プラスチックボトル)
100mL×10本(プラスチックボトル)
※※100mL×10本(プラスチックボトル細口開栓型)
250mL×20袋(ソフトバッグ)
500mL×20本(プラスチックボトル)
500mL×20袋(ソフトバッグ)
500mL×20本(プラスチックボトル広口開栓型)
500mL×20本(プラスチックボトル細口開栓型)
1000mL×10袋(ソフトバッグ)

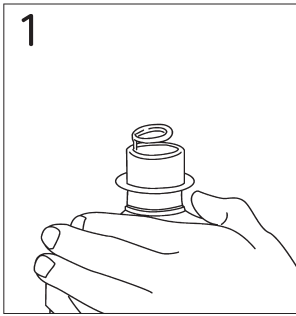
1000mL×10本(プラスチックボトル広口開栓型)
1000mL×10本(プラスチックボトル細口開栓型)
(プラスチックアンプルはポリエチレン製容器である。)
(プラスチックボトルはポリプロピレン製容器である。)
(ソフトバッグはポリエチレン製容器である。)

【文献請求先】

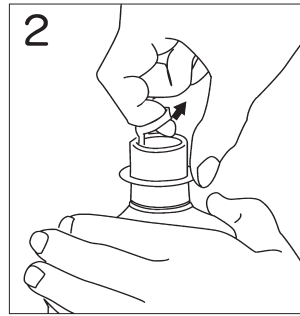
光製薬株式会社 医薬情報部
〒111-0024 東京都台東区今戸2丁目11番15号
TEL 03-3874-9351 FAX 03-3871-2419

プルオフキャップの取り外し方

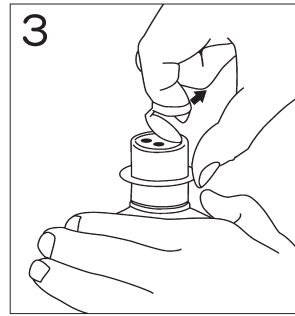
① 点滴型：50mL、100mL、500mL(プラスチックボトル)



プルオフリングの支柱部が向こう側になるようにボトルを保持します。

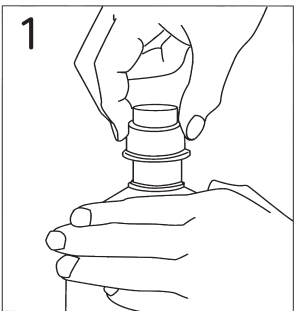


プルオフリングの上から人差し指を入れ、リングに指をかかけます。

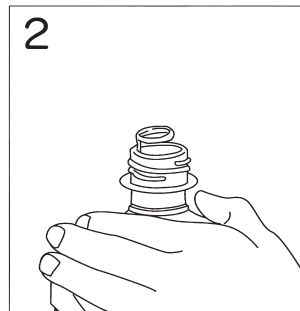


親指でささえ、手前方向へ約45度にゆっくり引くと取り外せます。

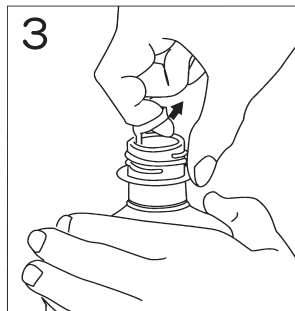
② 広口開栓型：500mL、1000mL(プラスチックボトル)



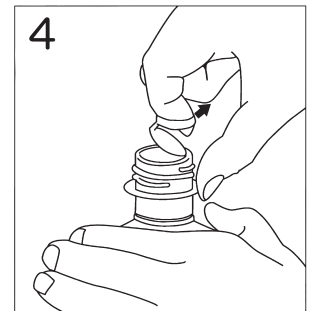
オーバーキャップを回し、開けます。



プルオフリングの支柱部が向こう側になるようにボトルを保持します。



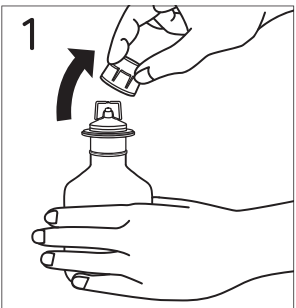
プルオフリングの上から人差し指を入れ、リングに指をかかけます。



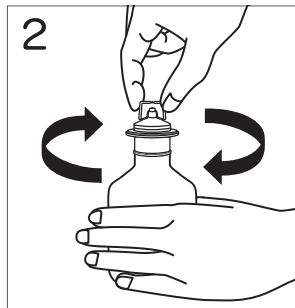
親指でささえ、手前方向へ約45度にゆっくり引くと取り外せます。

細口開栓型キャップの取り外し方

※※① 100mL(プラスチックボトル)

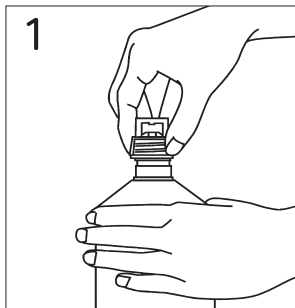


オーバーキャップを取り外します。

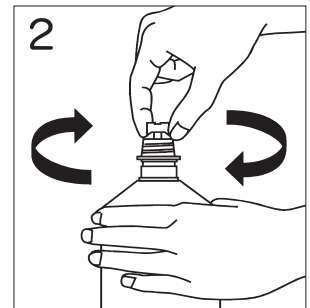


つまみ部分をねじると、切り離せます。

② 500mL、1000mL(プラスチックボトル)



オーバーキャップを回し、開けます。



つまみ部分をねじると、切り離せます。

製造販売元



光製薬株式会社

東京都台東区今戸2丁目11番15号